

# 財政審の議論について

定例記者会見

令和6年4月17日

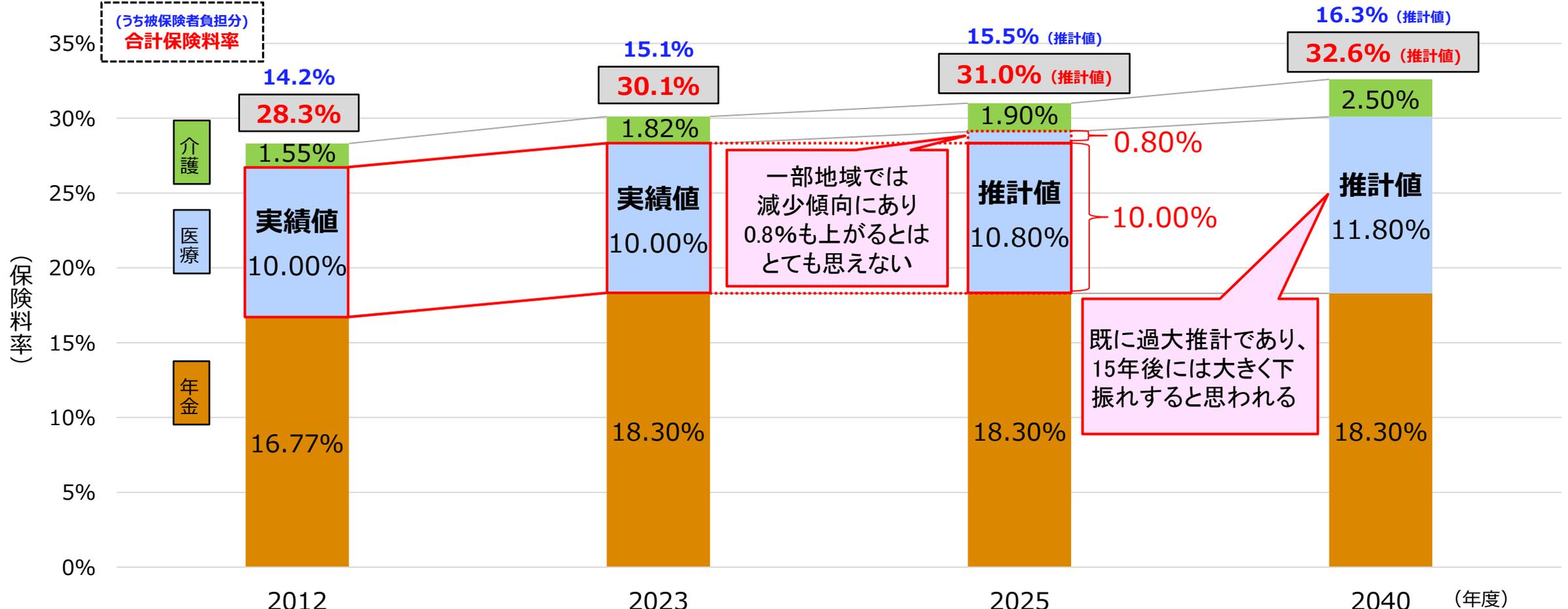
公益社団法人 日本医師会

# 協会けんぽの保険料率

政府が掲げる「コストカット型経済からの完全脱却」では、現役世代の手取りも増やしなが、それに伴って現在の料率のまま保険料収入も増え、社会保障は其中で十分行うことができている。

2018年に厚生労働省などが発表した「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」では、2025年度の協会けんぽの保険料率は10.8%に上がるとされているが、ここ数年間のコロナ禍があった中でも、協会けんぽの保険料率は2012年度から10.0%のままである。むしろ、今年度の東京都では、10.0%から9.98%に下がるなどの傾向もみられる。

こうした推計値は過大予測になっており、デフレ下のコストカット型経済を踏襲し、国民に過度な不安を煽るべきではない。

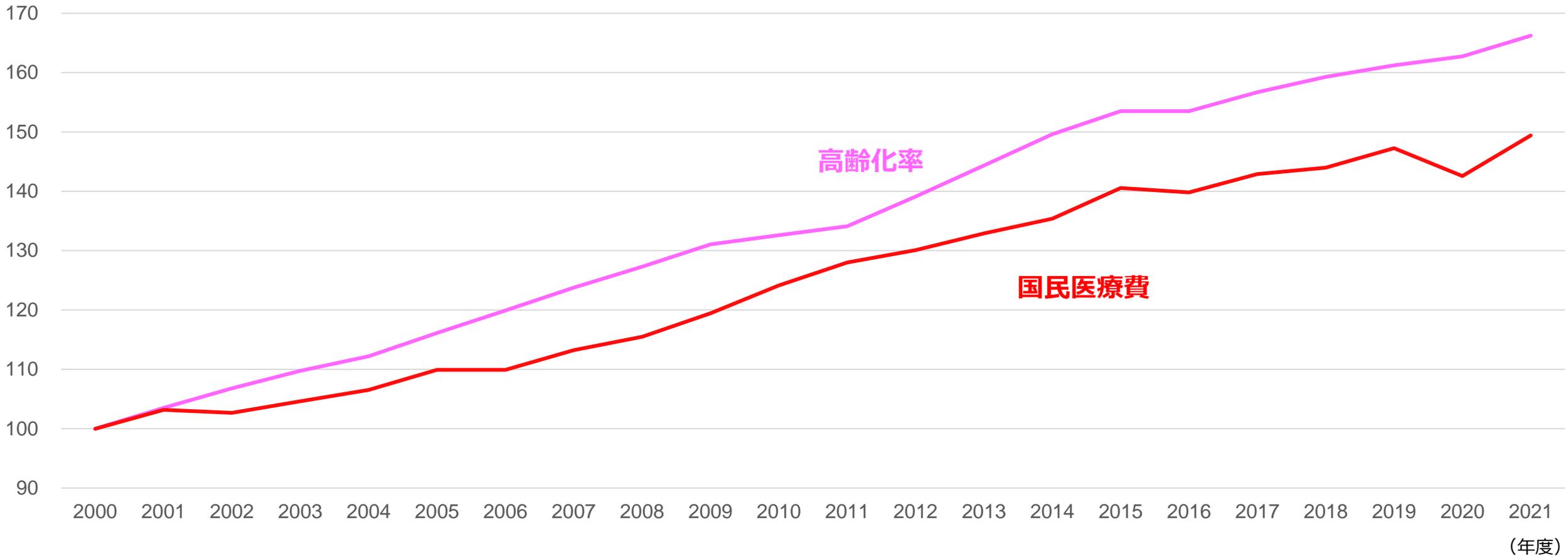


(出所) 財務省 財政制度等審議会「令和6年度予算の編成等に関する建議」(参考資料)(2)(2023年11月20日)資料Ⅱ-1-12<[https://www.mof.go.jp/about\\_mof/councils/fiscal\\_system\\_council/sub-of\\_fiscal\\_system/report/zaiseia20231120/04.pdf](https://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/report/zaiseia20231120/04.pdf)>  
内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」(平成30年5月21日)<<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000207399.pdf>>

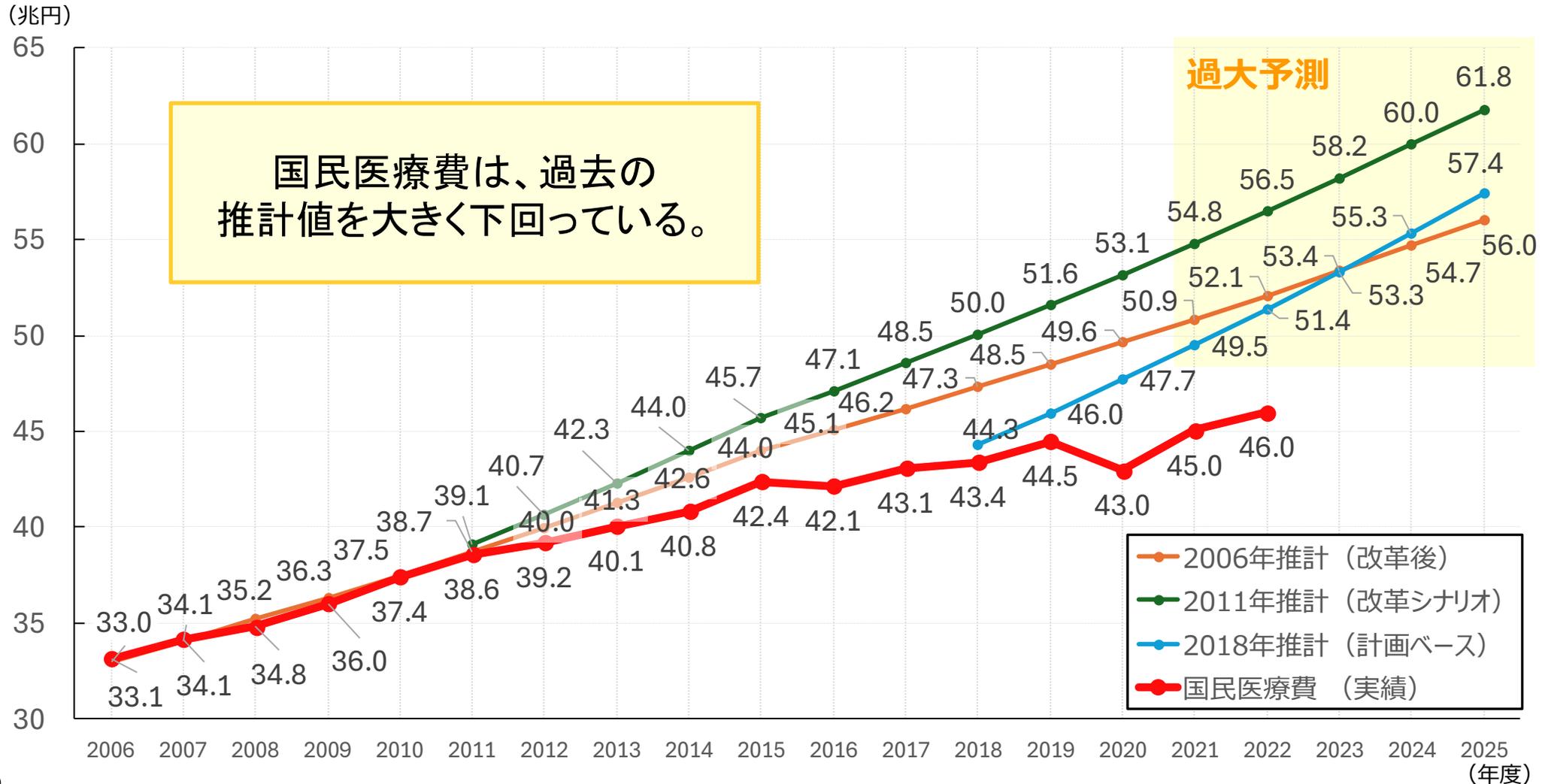
# 高齢化率と国民医療費

国民医療費は、高齢化の伸びよりも抑えることができている。

(2000年度) = 100



# 国民医療費の推計値と実績



(推計パターン)

- 2006年推計は「改革実施前」と「改革後」の2種類の推計のうち、「改革後」の推計値を掲載。2011年推計は「現状投影シナリオ」と「改革シナリオ」の2種類の推計のうち、「改革シナリオ」の推計値を掲載。2018年推計は「現状投影」と「計画ベース」の2種類の推計のうち、「計画ベース」(賃金・物価上昇率の平均+0.7%)の推計値を掲載。

<医療費>

- 2021年度までは厚生労働省「国民医療費」、2022年度は「令和4年度 医療費の動向」から推計。
- 2018年推計は給付費が公表されているため、2016年度の国民医療費に占める給付費の割合が88.5%であることを利用して推計(介護費も同じ)。
- 2006年推計、2011年推計、2018年推計で公表されていない年度については、公表値から年平均伸び率を計算して推計。

\*厚生労働省「第1回医療費の将来見通しに関する検討会」資料(2006年12月27日)、内閣官房「医療・介護に係る長期推計」(2011年6月2日、2012年3月に改定)、内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」(2018年5月21日)を基に作成。